

令和7年度 第1回伊達市総合教育会議 会議記録

| | | | |
|----------------|--|------|---------|
| 開催年月日 | 令和7年7月16日(水) | | |
| 開会時刻 | 午後1時30分 | 閉会時刻 | 午後3時00分 |
| 開催場所 | 伊達市役所 庁議室 | | |
| 出席の状況(○出席、×欠席) | | | |
| 1 | 伊達市 | 市長 | 須田博行 ○ |
| 2 | 伊達市 教育委員会 | 教育長 | 渡部光毅 ○ |
| | | 委員 | 宍戸弘治 ○ |
| 4 | | 委員 | 貝羽貴子 ○ |
| 5 | | 委員 | 関根勝富 ○ |
| 6 | | 委員 | 中野昭子 ○ |
| 事務局 | (伊達市) 総務部長、総務課長 (伊達市教育委員会) 教育部長、こども部長、教育総務課長、生涯学習課長、学校教育課長、学校給食センター所長、こども未来課長、ネウボラ推進課長、生涯学習課主幹、こども未来課主幹 | | |
| 会議内容 | 1.開会 2.市長あいさつ 令和7年度第1回伊達市総合教育会議に先立ちまして、一言ごあいさつを申し上げます。 日頃より、本市の教育行政にご尽力をいただいておりますことに対し、厚く御礼を申し上げます。 総合教育会議は、子育て、教育、学術、文化、スポーツの振興に関しまして、重点的に講ずべき施策について協議をする場としております。活発なご意見をいただきますようお願いを申し上げます。 まず、令和7年度の第1四半期が終了いたしましたので、教育行政の近況についてお話をさせていただきたいと思えます。 まず、4月13日に、第63回伊達ももの里マラソン大会が実施されました。一昨年度までは、9月の上旬に実施をして | | |

いましたが、毎年暑い日が続き、熱中症アラートが発表される中での実施は危険が伴うということで、昨年度から4月の第2週に実施をいたしました。昨年度までは、競技種目を限っていたので参加者が1,500人程でしたが、今年は2,127人と増加してきております。同時に伊達なうまいもの市を開催させていただき、大変好評でございました。来年度以降も、種目をどうするか、時期的なものもどうするかということを実行委員会で協議を行い、開催を進めていきたいと思っております。

5月25日に伊達市吹奏楽きらめき事業第10回合同演奏会を保原体育館で開催いたしました。委員の皆様にもご参加をいただき、ありがとうございます。中学校の吹奏楽部と、東京藝術大学の先生、そして学生の皆さんが同じ舞台上で演奏するということは、子供たちにとって夢のような経験だったと思っております。また、プロの演奏やプロの方から指導を受けることによって、吹奏楽のレベルアップも図られていると思いますので、今後も音楽を通じた交流活動をしっかり進めていきたいと思っております。

5月末からですが、市内全小中学校の女子トイレに生理用品の設置をいたしました。令和6年度に、上保原小学校と桃陵中学校で試験的に実施をしてきたところですが、今年度から全校に拡大をしました。

6月10日に、幼小中の読書活動推進連絡会を梁川小学校講堂で開催し、50名の先生方に出席をしていただきました。読書の推進と環境の整備、そして幼稚園、こども園も含む幼児関係教育、小中学校教育の連携強化について意見交換をしていただいたところでございます。

6月25日にはICT教育研修授業研究を伊達東小学校で実施をいたしまして、35名の小中学校の先生方に参加していただきました。ICT教育は、今や授業には欠かせないものでございます。教える側もレベルを合わせる必要があるということで、お互いに意見交換をし、研修の実施を進めてきたところです。その中で、ICTを効果的に活用した授業のあり方について、熱心に議論が交わされてきました。

第1四半期にこうした教育関係の数々の取り組みをしてき

ましたが、第2四半期以降もしっかり教育行政を進めていきたいと思っております。

本日の総合教育会議におきましては協議事項としまして、1つ目が「部活動地域移行について」、2つ目が「地域と学校の関わりについて」、3つ目が「伊達市幼児教育協議会について」、ご議論いただきたいと思っております。本会議を通じまして様々な課題、教育施策について協議、調整を図って参りたいと思っておりますので、活発なご議論をお願いいたしまして挨拶とさせていただきます。

3. 前回協議事項の進捗報告

事務局（学校教育課長が資料に基づき説明）

4. 協議（議長…市長）

協議事項（1）部活動地域移行について

事務局（部活動地域移行コーディネーターが資料に基づき説明）

○貝羽委員：川俣町の例で、週休日の部活動をすべて地域に移行されているという認識でよろしいでしょうか。登録料2,000円ということですが、年間2,000円ということですか。集まった登録料で間に合わない部分は、町の方が負担している形ですか。

○部活動地域移行コーディネーター：担当者に聞いたところ、川俣中学校と山木屋中学校の生徒全員が川俣町のスポーツクラブに入会するシステムをとっていて、1人あたり年間2,000円かかるそうです。その費用はすべて町が負担し、負担軽減を図っているようです。また、指導者に対する報酬費を考えると、この2,000円だけでは足りないので、川俣町では、部活動地域移行に700万円程の予算を確保し、充当していると聞いています。

○宍戸委員：部活動では大会や練習など外出をしますもので、その行き帰りの問題など何か起こった際の責任問題ですが、

教育委員会が取りまとめている期間中は教育委員会が責任をとるのかもしれませんが、すべて地域に移行した場合に、何か起こった際の責任の所在はどうなるのでしょうか。

○学校教育課長：すべて移行した場合は、学校の部活動とは別のクラブに所属するという形になるので、そのクラブで、怪我やその他の事故については責任を持つことを想定しております。

○宍戸委員：民間に責任を持たせるということで、本当に責任が持てるのでしょうか。

○学校教育課長：部活動地域移行という考え方からすると、学校から地域に移行するには、チームの所在は地域であるという発想をしていかないことには進まないと思います。当然、種目ごとに立ち上げた地域クラブにおいて、怪我等に関しては傷害保険をかけて、取りまとめをしていく必要が出てくると考えています。

○部活動地域移行コーディネーター：勝利至上主義が強く、パワハラなどの問題も当然ながら考えられると思います。その様なことが起こらないように、教育委員会がまず主体となって進め、地域クラブの方に引き継いだ際に、研修会を繰り返しながら指導を重ねていくという方法が、今回の地域クラブのあり方になります。

○関根委員：地域クラブについてですが、生徒の競技人口によって、指導者の人数が多い種目もあれば少ない種目もあります。多くの指導者がいる競技だと、その中での調整は協議して進めていくと思いますが、調整はうまくいっているのか質問したいと思います。

○部活動地域移行コーディネーター：既に地域部活動という形で、クラブ活動のように合同練習会を行っているところがあります。今までは全員の顧問が集まり合同練習会を見てい

くという形でしたが、少し形を変えて、何名かで見えていくローテーションの形で今年度から実践されるかと思います。その形を繰り返すことにより、ゆくゆくは地域クラブの指導者の方に委ねていき、学校が主体で行うやり方を地域クラブでも真似て、進化させて進めていただきたいと思いますところではあります。ただ、部活動によって進んでいるところと進んでいないところが極端です。部活動地域移行を全く考えていないという種目もまだあるので、伊達市全体で地域クラブを作り、それぞれ種目ごとに同じ意識を育てていくということになります。ご理解いただければと思います。

○中野委員：地域クラブのところですが、先ほどの課題は、人材とお金だとお話がありましたが、指導者によって、子供たちに与える影響も多いと思います。中学生はまだ子供ですので、指導者の好き嫌いなどもあるかもしれません。そのような指導者になった場合はどうするのでしょうか。

○部活動地域移行コーディネーター：優秀な指導者の人選については問題が出てくるかと思うのですが、地域クラブを立ち上げた後に、指導者は登録制となります。登録する段階で、各種目の担当者に任せるのではなく、教育委員会が中心となり人材の部分は確認していきたいと思います。しかし、教育委員会がすべての人を把握しているわけではありません。ただ、過去に何か問題があった方は、教育委員会で把握できると思いますので、除外させていただくなどの対応は考えていきたいと思っております。これは大きな課題だと感じております。

○中野委員：最初は教育委員会で取りまとめをし、その後も教育委員会の方で指導していく話がありましたが、何年くらい関わるのでしょうか。監査ではないですが、指導をどの様に行っているのか、言葉遣いとか、父兄からの評判とか、ある程度判断する人がいないと何か問題が起きてからでは大変なことになってしまうと思います。

○部活動地域移行コーディネーター：計画では、今年度組織を完全に立ち上げ、すべての部活動において週休日の地域クラブ活動を実施するのは、来年度になるかと思います。令和8年度は、月4週あるうちの1回でも実施してもらえればよいという試的な部分で行い、月1回実施する中で、出てくる課題等を検証しながら対応策を示していければと考えています。令和9年度には完全実施と話しましたが、なかなか難しい種目もあると思いますので、月4週のうち最低でも半分以上は実施していただきたいと考えています。令和9年度中に様々な課題が把握できてくるかと思いますので、平日の課題も含めて対応策を考えていきたいと思っています。そういった課題が大体見えてから地域への移行という形になると思います。

○学校教育課長：指導者の質という問題に関しては、初めは教育委員会で指導者の手引きを使って人選を行い、地域に移行した後の指導者の教育であるとか各クラブの方向性を支えるのが、取りまとめ団体と呼んでいる団体になります。各種目の団体と、それを束ねる取りまとめ団体が、これから先の指導者を束ねていけたらと考えています。手引きにあるような内容を伝え、内容に合わない人はクラブの指導者はできないということを伝えていける団体に教育委員会からバトンタッチできたらというのが、私たちの考えです。

○貝羽委員：今の取りまとめ団体のお話ですが、今存在する団体、例えば体育協会など、そういった存在でしょうか。それとも団体そのものが教育委員会なのでしょうか。

○学校教育課長：できれば公設の団体と考えています。公社などが取りまとめ団体になっていけたらということで、協議を進めていきたいと考えているところです。

○市長：部活動地域移行は、子供たちがスポーツに親しむためには進めていかななくてはならないと思っていますので、令和7年度からこのスケジュールで進めていきたいと思っています。

ます。まずは教育委員会の方で実施をした上でその状況を見ながら地域に移行し、地域移行した後にそこを担う団体をどうするのかという課題があると思いますので、確認しながら進めていきたいと思っています。

協議事項（２）地域と学校のかかわりについて

事務局（資料に基づき説明）

学校での取り組み：学校教育課長

生涯学習の取り組み：生涯学習課長

歴史文化の取り組み：生涯学習課主幹

○関根委員：資料（「地域と学校のかかわりについて」）とは少し離れますが、地域と学校のかかわりという部分で、関わる年代に差があると思っています。子育て世代は当然学校と関わるし、スクールコミュニティーなどの活動については年配の方々が関わっている。40代後半から60代の子育てが落ち着いた年代は全く学校と関わるものがなくなってしまい、残念だなとつくづく思います。その年代が学校に関わり、現役の子育て世代にアドバイスをしたり、もっと上の世代と若者をつないだりすることができれば、もっとスムーズにいくのだらうと思います。先程の部活動の指導員も、その年代が関わるようになれば、うまく回っていくと思うのですが、そのような仕組みはないのでしょうか。

○市長：子供たちが学校に通学していない年代でも、地域として関われるものは何かないですか。

○学校教育課長：学校が主体となる活動においては、保護者さん、もしくは地域の年配の方に昔のことを教えていただくという関わりが多かったので、40代後半から60代の方が抜けています。おっしゃる通りだなと思いました。

○市長：色々と地域のことを指導してもらえるのは、やはりある程度年配の人が多いいですか。

○教育長：コロナが蔓延する前は、私が以前勤務した学校も、地域の方々と交流する機会が結構ありました。ところが、コロナ渦があり、3年間ほど遮断されてしまったので、なかなかそういった関わりが消えてしまいました。ですから、やはり地域の中の学校でありますので、幅広い年代の方に関わってもらえる仕組みをもう一度考え直すということは非常に大事なことだと思います。今のご助言をいただいたことを学校教育課だけでなく、教育委員会の中で検討していきたいと思っています。

○宍戸委員：地域と学校の関わりはとても大事なことだと思います。本来、地域というのは、小学校区だと思います。元々は小学校がその地域のコアであり、そこに集まり運動会も住民も一緒になって行っていました。私も小学校に入る前、助六寿司を食べながら運動会を見ていた記憶があります。それが楽しみでありましたし、地域の絆を深めていたのだと思います。今は残念なことに小学校が統合されていき、地域の範囲が広がってしまったと思います。だからこそ、学校の地域のコアとしての役割というのは、逆に大きくなっていると思います。地域の人に学校へ入ってきてもらうだけではなく、学校がどんどん地域に参加していくことが大事なことだと思います。5町が合併してできている市なので、歴史講座にしても、住んでいる地域だけでなく伊達市全体を扱い、伊達市民としてのアイデンティティを育てていただきたいと思っています。それがまさに地域との関わりの中で生まれ育っていくと思うので、ぜひ積極的に地域と学校との関わりは進めていただきたいです。

○市長：子供たちに、町ごとではなく伊達市としての地域について教えている歴史的な内容は何かありますか。

○生涯学習課主幹：宍戸委員からご指摘ありましたように、今まで歴史の分野では、テーマをきちんと定めずに進めてきたところがありました。しかし、やはり伊達市の大きな歴史的特徴としては、中世伊達氏という歴史と、日本の近代化

を支えたという意味での養蚕業の歴史が大きいと捉えておりますので、今年度から、子供たちに理解を深めてもらうために、メニュー化を図りながら走り出したところです。今後も伊達市の大きな歴史と各地域に残っている文化から派生して、地域と学校が関われるような仕組みが作っていただければと考えております。

○貝羽委員：今、中世伊達氏の歴史に関してのお話が出ましたが、ちょうど史跡の整備を行っている真最中かと思います。以前も申し上げたのですが、施設を作るにあたって、ぜひ子供たちの意見を取り入れるなど、何か子供たちを巻き込む部分があってもいいのではないかと考えています。そうすることにより、施設が出来上がったときに自分たちが関わった施設だと思えるときと来てくれると思います。せっかく作る施設であれば、ぜひ市民に愛される施設を作っていただきたいと思いますのでご検討いただければと思います。

○生涯学習課主幹：今後、子供たちとの相談の場などを検討しながら進めたいと思います。ありがとうございました。

○貝羽委員：地域と学校の関わりについてですが、産業や文化においては、とても一生懸命に取り組んでいることがわかるのですが、市政と子供たちの関わりが少ないようなイメージを持っています。資料（「地域と学校のかかわりについて」）に紹介されている授業の例で、松陽中の伊達市活性化の提言をしていただいた例が載っていますが、そういった授業をもっと増やしたらいいのではないかと考えています。例えば、子供たちが議会の見学に来るなどの機会がもっとあれば、子供たちの意識も変わり、大人の意識も少し変わってくるのではないかと考えています。

○学校教育課長：中学生が伊達市活性化のための提言ということで、社会科の発展的な課題として取り扱ったものについては、松陽中学校で行ったのですが、他の中学校にも実践の共有化を図って、ぜひ取り入れていただければと考えております。

また、市議会や市政についても、中学3年生で公民の授業で学びますので、地方自治等を学ぶときに、その様な時間が取れればと思いながらご意見を聞いておりましたので、情報提供をしていきたいと考えております。

○こども未来課長：こども部で、今年度、D20 サミットを9月に開催させていただければと進めているところです。令和5年度に1度開催させていただいたのですが、2年に一回程度にはなるかと思うのですが、子供たちに来ていただいて、市長も含め三役等も参加いただいて、子供が意見を述べる場を設けさせていただければと考えているところです。

○貝羽委員：ぜひその場に、議員さんたちも呼んでください。

○中野委員：通学合宿のところですが、令和6年度にボランティアとして参加したのですが、そのときのメニューは普通のカレーとレトルトのハンバーグでした。今はすごく進化していて、養蚕について学ぶ機会も含まれていて、すごくいいなと思いました。令和8年度もさらに進化して、お寿司屋さん呼んで作るとか、何か子供たちに楽しみがあったほうがいいと思いました。時間を持て余す様子もあったので、もう少し刺激があったほうが、子供たちも学ぶし、楽しいし、美味しいので、令和8年度もよろしくお願いします。

○生涯学習課長：ボランティアに参加していただくのも大変ありがたいです。ちなみにレトルトのハンバーグですが、それも、伊達市に工業団地ができましたパルシステムさんのものでした。購入する食材については、できるだけ伊達市産のものを取り入れまして、これは伊達市の食材だよと説明しています。また、時間を持て余すということですが、時間の過ごし方についても、ゲーム等は全く持ち込みできないので、自分たちでの遊びや学校の宿題を友達同士で集まって取り組んでもらっています。この遊びについても、昔ながらのボードゲームなどで仲良くなってもらおうということも行なっております。令和8年度につきましても、新たな食材や提供先を

探しながら、新たな展開で行っていきたいと思います。

○市長：地域と学校の関わりについてですが、私も実際に小中学校のときに、地域のことはそんなに教えてもらった覚えがあまりなくて、伊達氏発祥の地だということが、今になってわかったということが非常に残念だと思っています。ですから、子供たちにとっては、そういう歴史も含めて産業文化が自慢になるとと思います。それを子供たちが、他に行っても、自分の市はこうだよと話せるように教えていけたらと思っています。伊達市として合併したのだから、子供たちにとって伊達市全体がふるさとだと考えてもらえるように一緒に考えていきたいと思います。

協議事項（3）伊達市幼児教育協議会について

事務局（こども未来課主幹が資料に基づき説明）

○宍戸委員：幼児教育協議会が設立され、幼稚園、保育園、認定こども園から、スムーズに1年生に進めていけるのは、伊達市ならではの事だと思っています。また、青少年健全育成において、少年の主張の全国大会には必ず皇室の方がご臨席されるくらい重要視されていますが、伊達市は毎年参加しています。それは、こども部と教育部が教育委員会にあるからです。せつかくこれだけの体制ができていますので、教育部とこども部がしっかりと連携して進めていき、そこに市長部局もしっかりと関わり、市全体で子供たちのために団結して進めていただきたいです。

○教育長：貴重なご意見ありがとうございます。私も、教育長会議等で他の市町村の教育長とも話をしますが、幼稚園の見学をすると、うちの市は全部私立なので市の管轄ではないという話をされる方もいます。ところが、伊達市は、公立もありながら、私立もしっかりと面倒見る、これは公立私立関係なく伊達市の子供という認識でありますので、宍戸委員からご指摘があったように、結びつきを強くし、今後も2つの部で力を合わせながら、教育を推進して参りたいと思います。

ありがとうございます。

○市長：協議会を作って、それぞれの園長、副園長、主任、それぞれの立場で話し合いをする機会ができたというのは本当に良い取り組みです。私立幼稚園では独自の考え方があるので、他の園を見ていない場合もあります。それをこの協議会の中で情報共有できるというのは本当に良い取り組みです。協議会での成果をもとに、また来年、再来年とレベルアップしていけるのではと思っています。

○貝羽委員：例えば、福島市ぐらいになると、子供を預けようというときに、園の方針などで私立に入れるか公立に入れるか、ある程度見極めて親の意思を持って預けられると思うのですが、伊達市の場合だと、どうしても家から一番近い園になりがちです。本当は公立に入れたいのに私立になってしまったり、私立に入れたいのに公立になってしまったりすることもあると思うのですが、この協議会が作られて、色々な情報交換がされて、どちらに預けても安心だということをもっとアピールしていいと思います。伊達市は教育に関してとても一生懸命取り組んでいるので、伊達市に子育て世帯の方がどんどん入ってきてくださるように、ぜひ上手に宣伝していただきたいと思います。

○こども未来課主幹：幼児教育に携わるものたちは、アピールが下手だと言われておりましたので、頑張ってみたいと思います。ありがとうございます。

○市長：伊達市の幼児教育については、協議会設立と架け橋プログラムを進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

15:00 終了